

あさひの日だまり

令和5年12月 1日 (金)

NO.29

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～交流することで学ぶこと～

機会を作って下さったことに感謝

今週はいくつか校外の皆さんと交流を深めることで子どもたちがいろいろなことを学ぶ機会がありました。

一つは、赤羽に会社があるフォレストエコシステム様のご厚意によるゆめ山の整備です。これは、6年2組の皆さんがあさひの時間に取り組んでいる活動です。6年2組では、ゆめ山を整備して全校が楽しめる場所にしようという願いをもって活動を展開しています。アスレチックに利用する丸太の調達に森林整備に取り組んでおられるフォレストエコシステム様が協力してくださいました。丸太の用意からのこぎりの準備、丸太を切る方法の指導等、お仕事のある中で社員皆さんで子どもたちを支援してくださいました。丸太は森林整備のために切り出し販売される予定のもので価値のあるものです。それを子どもたちのために何本も無料で提供して下さったのです。子どもたちのこの活動は会社のご支援がなければ到底行うことのできない活動です。

先生と校内で行う授業の枠をはるかに超えて、子どもたちは自由に振舞い新しい体験を楽しんでいました。私は、五感を通して感じた経験は自分の体の一部になると思っています。それは一生体から離れることはない大切な宝です。そんな大切な経験をしている子どもたちの姿を見ることができました。

社長さんとお話の中で「今後もぜひ継続して私たちと活動を行ってください」と、力づよいお言葉をいただき本当に感謝の思いです。



二つ目は、かがやきときらめきが「デイサービスゆうちゃんち」で行った交流活動です。かがやきときらめきの子どもたちは、この日までにパネルシアターと楽器演奏の練習を重ねてきました。当日は大きなはっきりした声で発表できました。体の動きもわかりやすい大きな振りで動けていました。利用者の皆さんと一緒に体を動かしながら顔をほころばせて見学して下さいしている様子を見て、本当にうれしい気持ちになりました。

数日前、子どもたちの練習の様態も見せてもらいました。その時は目の前に見学して下さいする人がいるということ意識した発表には至っていませんでした。直前の数日間、子どもたちは相手意識と緊張感をもって練習に取り組んだのです。発表の様子は見違えるものでした。子どもたちは今回の舞台を通じて大きく成長していました。施設の方に喜んでいただける嬉しさもありますが、それと同時にこのような発表の機会は子どもたちを大きく成長させてくれます。活躍の場面を設けて下さったゆうちゃん家の皆様に心から感謝申し上げます。

三つ目は、豊南短大の皆さんと1年生の交流です。1年生は継続して豊南短大の幼児教育学科の皆さんと交流をしてきました。今回は初めて子どもたちが豊南短大に招かれての交流でした。残念ながら私は用事がある様子を見に行くことができませんでしたが、翌日の朝、教室で「昨日楽しかった？」と尋ねると「うん、体育館でやったわがりおにごっこがすごく楽しかった」「サーキットが楽しかった」と何人もの子どもたちが満面の笑みで答えてくれました。きっと学生の皆さんは時間をかけて準備をして下さったに違いありません。



子どもたちが大学生の年齢の方たちと接する機会はそうそうないと思います。大学生に声がけをすると常日頃の先生方の反応、あるいはご家族の対応とは違った反応をしてくれたことと思います。

先生からの声がけには「教える」とか「導く」とか「指導する」という思いが含まれているでしょう。そしてご家族とのやり取りには、「こんな子どもに育ててほしい」という強い願いが込められているに違いありません。一方、大学生とのやり取りは、その両者とは一線を画し、子どもにとって新しい立場の人との新鮮な出会いの経験になったことと思います。子どもたちはこの先色々な立場の方と共に暮らしていくこととなります。今回の経験はそのスタートです。こういう経験ができることが本当にありがたいことです。幸い豊南短大は歩いて訪れることのできる場所にあります。今後も継続して交流の機会が持てますようお願いしていきたいと思います。

～読書旬間真っ最中です～

色々な企画が楽しいです



11月20日から12月5日までの間、読書旬間が行われています。旬間の間色々な企画を計画してくれました。

昇降口には先生方のおすすめ本が掲示されています。私は「走れメロス」を紹介しました。恥ずかしながら、どんな内容だったか忘れてしまった部分が多く、この機会にもう一回読み直しました。かつて読んだときの感動とはまた少し違った部分に心を動かされたりすることにちょっと驚いたりもしました。「あ～こんな文章もあったのか」と新しい発見もあったりしました。

上級生が下級生の教室を訪ねて読み聞かせをする企画もあり丁度その場面に会いました。机を後ろに下げて読み手を丸く囲んでお話に聞き入っている様子は何とも心温まる雰囲気でした。

地域のボランティアの皆さんをお招きしての「わくわくおはなしかい」が学年ごとに分かれて6回開催されました。読み聞かせの合間にはリズムに合わせて体を動かすような活動も仕組まれていて、1時間楽しい時間が過ごせるように工夫してくださっていました。

お家の方をお願いします。お子様たちは読み聞かせが大好きです。絵本でも結構ですし、文学作品でもよいと思います。初めは落ち着かなくても、お話が進むと内容に引き込まれていくと思います「今日も続きを読んでよ」というようになるかもしれません。布団に入ったところで枕元に寄り添って読んでいただくこともとっても素敵だと思います。ぜひ、そんな機会を作っていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

